

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

|                |                |   |              |     |
|----------------|----------------|---|--------------|-----|
| ※受理番号          | 学 校            | 教 科   | 種 目          | 学 年 |
| 27-235         | 高等学校           | 外国語   | コミュニケーション英語Ⅱ |     |
| ※発行者の<br>番号・略称 | ※教科書の<br>記号・番号 | ※教科書名   |              |     |
| 226 チアーズ       | コⅡ・357         | ATLANTIS Hybrid English Communication II Advanced |              |     |

## 1. 編修の基本方針

教育基本法第二条の目的を達するために、以下を編修の基本方針とした。

- 一 言語の特性等を幅広く学びながら、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成できる内容とする。
- 二 多様な価値観を学んだり、その内容を他者と交換し合ったりペアワーク等をしたことで、互いの意見が尊重される経験を積み重ねられるような構成とする。
- 三 外国語を通じた世界観に触れ、その有用性や実用性等の知識を学ぶ中で、自他の違いを重んじる態度を育むと共に、主体的に社会に貢献しようとする態度を養えるような内容を扱う。
- 四 世界を舞台とした題材を選んだり、世界に視点を置いた価値観に触れたりすることで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する姿勢に広がりを持つような構成とする。
- 五 進んで外国の文化を理解しようとする態度を育成するとともに、国際理解や国際感覚を養い、国際社会に関心が持つような内容を厳選する。また、我が国について掘り下げて考えることができるよう配慮する。

## 2. 対照表

### A 目次順にそった対照表

| 図書の構成・内容  | 特に意を用いた点や特色  | 該当箇所         |
|---|--|--------------|
| Lesson 1<br>Money<br>Different ways to think<br>about money   | 「お金」について、幅広い知識と教養を身に付けることを一番の目的とする。(第1号) 日本人は「お金」への理解が、物質的側面に偏りがちな傾向があるため、日本以外の国の人々がどのように考えているかを知ること、「お金」への価値観を広げ、生徒がこれから直面する進路や就労への意欲付けにもつながるよう配慮した。(第2号)                   | 1～<br>10ページ  |
| Lesson 2<br>Lake Como<br>One of the most<br>beautiful places in the<br>world<br>and the importance of<br>preservation | イタリアの「コモ湖」という、日本ではあまり馴染みのない観光地を紹介することで、世界には多くの美しい場所がある、ということを知れる機会を促した。(第1号) また、その土地の文化や伝統を保全する大切さも紹介する。(4号) 西洋文化を受容し失われてしまった日本独自の文化を、今後どのように継承、発展していくかについて考えられるよう意を用いた。(5号) | 11～<br>20ページ |

|  |  |                      |
|--|--|----------------------|
| <p>Lesson 3<br/>A Map of the Universe<br/>The size and shape of the universe</p>   | <p>理系分野の論文を英文で読み深めることを意図した。今後大学進学後に行われる研究において、英語の文献を読むことが必須であることが想定されるため、その疑似体験ができるよう意を用いた。(第1号) また、大きい数字を英語で表現することは日本人にとって不得意分野の1つであるため、あえて大きな数に焦点を絞り理解が深められるよう配慮した。(第1号)</p>   | <p>21～<br/>30ページ</p> |
| <p>Lesson 4<br/>Island of Hope and Tears<br/>One of the greatest migrations in human history and the plight of immigrants in America</p> | <p>Lesson 3 とはうってかわって、ヒューマンストーリーを題材とした。実話をもとにした移民の苦悩を知ることで、より共感が沸くよう配慮した。(第1号) また、いま現在、日本国内に移住してきた移民と、移民が日本にもたらした恩恵について等を考えるきっかけになることを期待する。(第3号)</p>   | <p>31～<br/>40ページ</p> |
| <p>Reading 1<br/>Charles Dickens<br/>The life and works of a beloved writer</p>  | <p>世界で最も愛されている作家の1人であるチャールズ・ディケンズについて読み進める。ディケンズの幼少期はとても困難が多かったにも関わらず偉大な作家になれたのはなぜなのか。生徒一人一人が自分自身の生き方と重ねることで、自分にとっては不利だと思われることも、後に大きな成功につながることもあるということをディケンズの一生を通して学んでみる。(第1号)</p>   | <p>41～<br/>50ページ</p> |
| <p>Lesson 5<br/>Careers<br/>The good and bad points of four careers</p>  | <p>会社員、自営業者、公務員、医者といった四種の職業観を、長所だけではなく、短所も同時に知ることで、職業に対する幅広いイメージが持てるよう意を用いた。日本においては、中小企業で働くことや起業することは敬遠されがちであるが、例え少々リスクがあっても、自分のやりたいことに向かって進める勇気をもってもらいたいため多種の職業を選んだ。(第2号)</p>   | <p>51～<br/>60ページ</p> |
| <p>Lesson 6<br/>Birth Order<br/>How birth order can affect our lives</p>   | <p>第一子、中間子、末っ子、そして一人っ子といった生まれ順が、どれほど自分の人生に影響を与えているのかについて考える。それはまた自分を取り巻く家族や友人をより深く理解するのにも役立つであろう。生まれ順は確かに生き方に影響を与えはするが、それが運命を決定付けるような絶対的なものであるわけではないことに留意し、むしろ、それぞれの生まれ順についてのストーリーに共感しながら自分自身のことについて掘り下げて考えられるよう配慮した。(第1号)</p> | <p>61～<br/>70ページ</p> |
| <p>Lesson 7<br/>Tigers<br/>The plight of the tiger</p>   | <p>野生トラが急激に減少している。トラの苦しい現状について知り、原因をひも解く中で、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度が養われるよう配慮した。(第4号)</p>   | <p>71～<br/>80ページ</p> |

|   |  |                       |
|---|--|-----------------------|
| Lesson 8<br>Katakana Words<br>The problems of<br>katakana words                                   | 「カタカナ語」に焦点を当て、それがいかに外国語学習はも<br>ちろんのこと、日本語そのものへの学習の妨げになっている<br>かについて学ぶ。(第1号) また、「言語」の変化が、日本語<br>や日本文化にどのように影響を与えているかを考えるきっ<br>かけとなり、日本語のこれまでとこれからについて考えられ<br>るよう意を用いた。(第5号)   | 81～<br>90ページ          |
| Reading 2<br>A Christmas Carol<br>One of the best-known<br>stories by Charles<br>Dickens          | 『クリスマス・キャロル』は、初老の商人、エベネーザ・ス<br>クルージに4人の亡霊が訪れることで、スクルージが改心し<br>ていく物語である。スクルージがいかに悲哀に満ちた過去を<br>送っていたかがひも解かれ、同時に彼の中にある良心に気づ<br>かされていく。「クリスマス」の本当の意味について考えな<br>がら、スクルージの生き方を通して道徳心を養える内容にな<br>るよう意を用いた。(第1号)                                   | 91～<br>100ペー<br>ジ     |
| Lesson 9<br>How to Be Happy<br>The habits of happy<br>people                                      | 科学者の研究によると、幸せな人には似たような習慣がある<br>ことがわかってきた。「幸せな人の習慣」は誰にでも当ては<br>まることでもあり、またすぐに実行に移しやすい内容でもあ<br>る。研究の結果を科学的側面から理解し、自分自身の生活パ<br>ターンについて見直すきっかけになることを期待する。自分<br>自身や自分を取り囲む人々をいかに幸せな気持ちにすること<br>ができるかについて考え、自他の敬愛と協力を重んじる精<br>神が育めるよう意を用いた。(第3号) | 101～<br>110ペー<br>ジ    |
| Lesson 10<br>Satoshi Omura and<br>Ivermectin<br>The work of an<br>important Japanese<br>scientist | ノーベル賞を受賞した代表的な日本人、大村智教授について<br>学ぶ。大村教授の研究が多くの命を救ったという功績を、ど<br>んな人生を送ってきたのかという視点で追っていく。経験か<br>ら多くのことを学び、世界がよりよくなるために何か役に立<br>つことがないか、と絶えず考えている大村教授の姿勢に多く<br>のことを学びとってもらえるよう意を用いた。(第1号)(第<br>4号)   | 111～<br>120ペー<br>ジ    |
| Reading Techniques<br>To help improve<br>students' reading<br>comprehension                       | これまでの Lesson 1～10までの各レッスンの内容を長<br>文問題として再度触れることで知識の定着を図れるよう留<br>意した。(第1号)  | 121～<br>141ペー<br>ジ    |
| Debate  | 2つのタイプのディベートを紹介し、英語でどのように自分<br>の考えを組み立てたり自分自身の考えを肉付けしたりする<br>かできるかについて学ぶ。特に自分の考えを論理立てて述<br>べる手法は相手に自分の考えを伝える上で有用なため、生徒一<br>人一人が自分の意見を英語らしく発信できるよう意を用い<br>た。(第1号)   | 142ペー<br>ジ～147<br>ページ |

|                          |  |            |
|--------------------------|--|------------|
| Grammar Summary          | 文法のまとめ一覧表を、これまでの復習として載せた。(第1号)   | 148～161ページ |
| Word and Expression List | 各レッスンの新出単語、慣用表現の一覧表を載せた。(第1号)  | 162～169ページ |
| Fluency<br>発音練習          | 4つのポイントに分けて発音指導をする。日常でよく使う英語表現を厳選しつつ、英語をより英語らしく発音し、英語話者にわかりやすい印象を与えられるよう意を用いた(第1号) | 170～171ページ |

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

| 図書の構成・内容  | 特に意を用いた点や特色   | 箇所       |
|---|---|----------|
| Lesson 3<br>A Map of the Universe<br>The size and shape of the universe | 「宇宙の大きさとかたち」について学び、他教科と有機的に学べるよう意を用いた。(学校教育法第二章七)                                   | 21～30ページ |
| Lesson 5<br>Careers<br>The good and bad points of four careers          | このレッスンを通して将来自分はどんな職業に就きたいのか、またそれはなぜなのか等を考えながら、仕事と自分の生き方について考えを深められるよう意を用いた。(学校教育法十) | 51～60ページ |

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

|                |                |   |              |     |
|----------------|----------------|---|--------------|-----|
| ※受理番号          | 学 校            | 教 科   | 種 目          | 学 年 |
| 27-235         | 高等学校           | 外国語   | コミュニケーション英語Ⅱ |     |
| ※発行者の<br>番号・略称 | ※教科書の<br>記号・番号 | ※教科書名   |              |     |
| 226 チアーズ       | コⅡ・357         | ATLANTIS Hybrid English Communication II Advanced |              |     |

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### 特色1・繰り返しによる学習

基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身に付けさせるため、導入から展開へ、少しずつつながりや広がりを持てるよう意を用いた。例えば、トピックに関する事項や問題がレッスン全体に渡ること、語彙を少しずつ紹介し、本文では新しい文章の中に組み込まれること、重要文法事項が本文に1度だけではなく、何度も出てくるよう、かつそれが外国語を日常使用する人々にとって自然な表現であることに留意した。

### 特色2・段階を追った発展的な問題

学んだ内容を、個人からペアワーク、3～4人のグループワーク、そしてクラス全体で意見交換できるような構成とした。少しずつ発展的な問題に取り組むことによって、自ら考え、判断し、表現する力が身に着くよう、またその過程で少しずつ外国語学習に自信が持てるよう配慮した。

### 特色3・継続的な学習意欲の育成

自主的に学習に取り組み、外国語に興味・関心が強まるよう、外国語を使用している人々を中心とする世界の人々やその世界観をふんだんに味わうことができるような構成とした。視覚に訴える写真、図、題材、問題等が、学習意欲を継続させることを期待する。

## 2. 対照表

### A. 各レッスンにおける構成とその対照表（1レッスンにおける授業時数）

| 図書の構成・内容  | 学習指導要領の内容   | 該当箇所                              | 配当<br>時数 |
|---|---|-----------------------------------|----------|
| 1. Cover Page<br>レッスンで学ぶトピックや文法事項についての概要を把握する。                        | 内容の取扱い<br>「コミュニケーション英語Ⅰ」の3と同様に<br>取り扱うものとする。<br>コミュニケーションⅠ内容の取扱い（2）生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。 | 各レッスン<br>1 ページ目                   | 1        |
| 2. Grammar points<br>文法を先に学習することで、<br>Reading 導入への抵抗感を和らげ、スムーズな移行を図る。 | 内容（2）ウ<br>未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。   | 各レッスン<br>2 ページ目<br>(レッスン<br>1のみ2, |          |

|   |   |                        |   |
|---|---|------------------------|---|
|   | <p>内容の取扱い</p> <p>「コミュニケーション英語Ⅰ」の3と同様に取り扱うものとする。</p> <p>内容の取扱い(2)</p> <p>生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。</p>  | 3ページ目)                 |   |
| <p>3.Vocabulary from Context</p> <p>短い自然な会話表現から文脈をひも解き単語の意味を予測する。</p>   | <p>内容(2)ア</p> <p>英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>内容(2)ウ</p> <p>未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。</p>   | 各レッスン<br>3ページ目         | 1 |
| <p>4.Pre-Reading</p> <p>本リーディングに入る前に、そのトピックについての予備知識を導入する。効果的な質問や写真を用いて、生徒の知的好奇心を刺激し、想像力を培う。</p>                  | <p>内容(2)イ</p> <p>論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。</p>  | 各レッスン<br>4ページ目         |   |
| <p>5.Reading</p> <p>4パートに分かれる。学んだ文法事項を順番に配列するとともに、何度も繰り返して文法事項を含んだ文を組み入れた。段階を踏んだアプローチによって、着実に定着していくことをねらいとする。</p> | <p>内容(1)ア</p> <p>事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>内容(1)イ</p> <p>説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。</p> <p>内容の取扱い</p> <p>「コミュニケーション英語Ⅰ」の3と同様に取り扱うものとする。</p> <p>コミュニケーションⅠ内容の取扱い(2)</p> <p>生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。</p> | 各レッスン<br>5、6、7<br>ページ目 |   |
| <p>6. Comprehension and Communication</p>   | <p>内容(1)ウ</p> <p>聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経</p>   |                        |   |

|   |   |                         |                        |
|---|---|-------------------------|------------------------|
| <p>復習に、本リーディングの内容理解問題を行う。出題形式を10種類以上と多岐にわたる内容になるよう留意した。様々な問題に触れることで発展的な内容にも対応できる力を身につける。</p>    | <p>験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。<br/>内容（1）エ<br/>聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについてまとまりのある文章を書く。</p>   | <p>各レッスン<br/>8ページ目</p>  | <p>1</p>               |
| <p><b>7. Grammar Practice</b><br/>主要文法事項の練習問題を行う。繰り返しによる定着を図る。</p>                              | <p>内容（2）イ<br/>論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。</p>   | <p>各レッスン<br/>9ページ目</p>  |                        |
| <p><b>8. Optional Reading</b><br/>外国出身者がどのような意見を持っているのかに触れ、レッスンの内容理解をさらに掘り下げる。</p>              | <p>内容（1）エ<br/>聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについてまとまりのある文章を書く。</p>  |                         |                        |
| <p><b>9. Listening</b><br/>学習した内容をもとに、情報や考えを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p>                            | <p>内容の取扱い<br/>「コミュニケーション英語Ⅰ」の3と同様に取り扱うものとする。<br/>コミュニケーション英語Ⅰ内容の取扱い</p>   | <p>各レッスン<br/>10ページ目</p> | <p>1</p>               |
| <p><b>10 Writing and Speaking (class discussion)</b><br/>レッスンのトピックに関して自分の意見を英語で表現する力を身につける。</p> | <p>(1)<br/>中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする。<br/>内容（1）エ<br/>聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについてまとまりのある文章を書く。<br/>内容（2）エ<br/>説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。</p> |                         |                        |
|   |   | <p>計</p>                | <p>10<br/>～<br/>11</p> |

B.目次順にそった対照表（年間指導時数）

※各レッスンについては、内容は上記の通りなので、ここでは主要文法項目のみを記載する。

（第三章英語に関する各科目共通する内容等ウ文法事項）

また、本文中の単語数、新出単語数、新出慣用表現数は、図書、通し番号ページvを参照する。

（第三章英語に関する各科目共通する内容等ア連語及び慣用表現）

| 図書の構成・内容  | 学習指導要領の内容   | 該当箇所         | 配当時数 |
|---|---|--------------|------|
| Lesson 1<br>Money<br>お金についての考え方の違い  | 未来のことを表す仮定法<br>if 節の代用<br>as if / as though を使った仮定法   | 1～<br>10ページ  | 10   |
| Lesson 2<br>Lake Como<br>世界一の景観とその保全  | It seems that / seems to be<br>強調構文<br>形式目的語の it  | 11～<br>20ページ | 10   |
| Lesson 3<br>A Map of the Universe<br>宇宙の大きさと形                                     | It is thought (to be / to have been)<br>関係副詞 how, why<br>関係副詞 that  | 21～<br>30ページ | 10   |
| Lesson 4<br>Island of Hope and Tears /<br>Review 1<br>人類史上最大の移住とアメリカ移民の苦悩         | 動名詞の意味上の主語<br>比較級+SV<br>分詞構文 過去分詞   | 31～<br>40ページ | 10   |
| Reading 1<br>Charles Dickens<br>みんなに愛された作家の人生や作品（レッスン1～4で学んだ全ての文法事項を含んだ総復習できる構成。） | 内容（1）ア<br>事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。<br>内容（1）イ<br>説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。<br>内容（1）エ<br>聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについてまとまりのある文章を書く。<br>内容の取扱い<br>「コミュニケーション英語Ⅰ」の3と同様に取り扱うものとする。<br>内容の取扱い（2）<br>生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高 | 41～<br>50ページ | 8    |



|  |  |                |    |
|--|--|----------------|----|
|  | 等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。  |                |    |
| Lesson 5<br>Careers<br>4人の仕事の長短  | 仮定法現在<br>不定詞の受け身<br>動名詞の受け身  | 51～<br>60ページ   | 10 |
| Lesson 6<br>Birth Order<br>生まれ順が与える影響  | 完了の分詞構文<br>複合関係詞<br>不定詞の意味上の主語   | 61～<br>70ページ   | 10 |
| Lesson 7<br>Tigers<br>野生トラの苦境  | be 動詞+to 不定詞<br>二重否定<br>独立分詞構文   | 71～<br>80ページ   | 10 |
| Lesson 8<br>Katakana Words / Review 2<br>カタカナ語の問題点                                     | 助動詞 + have + 過去分詞<br>未来進行形<br>未来完了形  | 81～<br>90ページ   | 10 |
| Reading 2<br>A Christmas Carol<br>チャールズ・ディケンズの代表作<br>(レッスン5～8で学んだ全ての文法事項を含んだ総復習できる構成。) | Reading 1と同様。  | 91～<br>100ページ  | 8  |
| Lesson 9<br>How to Be Happy<br>幸せな人の習慣   | 動名詞の完了形<br>付帯状況を表す with A B<br>過去完了進行形   | 101～<br>110ページ | 11 |
| Lesson 10<br>Satoshi Omura and Ivermectin<br>日本人科学者の功績                                 | 無生物主語<br>倒置<br>間接話法  | 111～<br>120ページ | 11 |
| Reading Techniques –長文読解問題10題  | 内容(1) エ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。  | 121～<br>141ページ | 10 |
| Debate<br>ディベート  | 内容(1) ウ<br>聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。<br>内容(1) エ<br>聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについてまとまりのある文章を書く。 | 142～147<br>ページ | 10 |

|   |   |                |     |
|---|---|----------------|-----|
|   | 内容（２）エ<br>説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。                                       |                |     |
| <b>Grammar Summary</b><br>文法のまとめ              | 内容の取扱い<br>「コミュニケーション英語Ⅰ」の３と同様に<br>取り扱うものとする。  | 148～161<br>ページ | 1   |
| <b>Word and Expression List</b><br>単語慣用表現の一覧表 | 内容の取扱い（２）<br>生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。 | 162～169<br>ページ | 適宜  |
| <b>Fluency</b><br>発音練習                        | 内容（２）ア<br>英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。   | 170～171<br>ページ | 1   |
|   |   | 計              | 140 |